

第1回波力発電検討会 議事録

議題	(1)波力発電の動向について (2)Ocean Power Technologies の取り組み紹介 (3)今後の進め方 (4)その他
日時	2009 年 7 月 22 日 10:00～12:00
場所	都庁第2本庁舎10階218会議室
出席者	委員： 荒川(東京大学)、鈴木(日本クレーン協会)、松浦(海洋研究開発機構)、宮島(三井造船昭島研究所)、長谷川(稚内新エネルギー研究会)、George(OPT 社)、濱舘(青森県エネルギー総合対策局)、浦谷(東京都) オブザーバー： 高浜(全漁連) 司会(暫定事務局)： 谷口(東京都) ※敬称略

1. 波力発電検討会趣旨説明

「波力発電検討会」の設立趣旨について、呼掛け人である東京都環境局(浦谷氏)より説明があった(資料 NO.1)。

東京都は、2020 年までに消費エネルギーの 20%を自然エネルギーで賄う計画を立てている。波力発電を有望な自然エネルギーのひとつと考えており、その導入を進める第一歩として当会の設立を呼び掛けた。

2. メンバー自己紹介および会長選任

本会への参加を表明したメンバーより自己紹介があった(資料 NO.2)。

谷口氏より、荒川委員の会長への推薦があり、承認された。

3. 波力発電の動向について

宮島委員より、佐賀大学の永田教授が「海洋エネルギー資源国際フォーラム」のためにまとめた資料(資料 NO.3)をもとに、波力発電開発の動向について説明があった。

4. Ocean Power Technologies(OPT 社)の取り組み紹介

George 委員より、OPT 社が開発したブイ型の波力発電装置「PowerBuoy」について紹介があった(パンフレットを配布)。OPT 社は実用化間近の発電装置を開発したメーカーとして当会に参加している。

5. 今後の進め方

次回は、10 月 23 日(金) 14 時～16 時、都庁会議室

今回を含めて、4 回実施する。次回以降、波力発電技術、実証に向けた課題整理、エネ庁への要請も含めた取り纏めなどを行うことを予定するが、今回すでにより重要かつ本質的な課題(波況、漁業、実証海域など)も見えてきたので、事務局を中心に調整を図りたい。

事務局は、今回、呼びかけ人である東京都が担ったが、次回からの事務局の労は宮島委員が担うこととした。

6. その他

今回検討会の中で、次のような質疑応答、コメントがあった。

- ・ OPTのPBは波周期と波高の両パラメーターに対し制御されている。
- ・ PBの設置密度は1ha/MWであり、占有海域はコンパクト。
- ・ ハワイでの環境評価は、高い評価を得た。
- ・ PBのメンテナンスは、米コーストガードの基準に従っている。
- ・ 稼動部品は、3年毎の定期点検で必要な場合は交換する。
- ・ 米国ではグリーンニューディールの影響が出ている。波力発電に対するDOEの補助金獲得、オレゴン州が波力発電のリーダーになるなど発言
- ・ 日本では、漁業の協力、折り合いが重要。漁礁効果のあるものとの組み合わせも考えられる。青森では、潮流発電に関して大間の漁業とぶつかっている。
- ・ 風力、潮流、太陽光などとの複合システムも考えられる。
- ・ 好波況が期待される沖合はデーターがなく、実測が必要。

(当日、NHKの取材があり、7月23日朝の首都圏ニュースで会の様子が放送された。また、様々なメディアで紹介された。)

以上